

| 関連部分 | 御意見 | 対応（案） |
|---|--|---|
| <p>【行動計画編】 18ページ 基本方針3 (1)取るべき行動1</p> | <p>行動計画18ページ、気候変動緩和策の推進について、シナジーの話は出ているが、トレードオフの話の言及がない。取るべき行動1にも最小化とあるので、施策には一貫性の観点からも入れた方がよい。推進の話だけではなく、最小化の話は国家戦略にも書いてあるので、何らかの形で入れていただきたい。</p> <p>関連する施策がどちらも「自然を活用した」とある。そうではない気候変動対策もあり、それらによる影響があるのであれば、それを最小化すべきという観点が必要ではないか。</p> <p>関連する施策について、「ア トレードオフ」「イ 緩和・適応策」とした方がわかりやすいのではないか。</p> <p>18ページ、14行目に記載のある「生物多様性や自然の有する」は、「生物多様性や、自然の有する」とした方が意味が通じるのではないか。また、施策についてはどれが該当するのか。</p> | <p>御意見を踏まえ、基本方針3の取るべき行動1に「ア 気候変動対策に伴う生態系への影響の把握」として、トレードオフに関する施策を追加しました。</p> <p>御意見を踏まえ、「生物多様性や、自然の有する」に修正させていただきます。また、施策については上記のとおり追加しました。</p> |
| <p>【行動計画編】 21ページ 基本方針3 (3)取るべき行動3</p> | <p>行動計画編21ページの「地域資源としてのジビエの活用」について、野生鳥獣肉とした方がよいのでは。屠体給餌の事例がある。関連する施策に、「エゾシカ肉の多様な利用拡大を図るため、屠体給餌など様々な利用を拡大」を入れてはどうか。</p> <p>普及啓発も含め、屠体給餌は全国的にやっていかねばならない。文言として出てくるのが大事。ジビエは、エゾシカだけではなくヒグマも利用されている。野生鳥獣という言葉に代えた方がよいのでは。</p> <p>ジビエは、鳥獣という表記でもよい。肉だけではなく皮もある。また、関連する施策として記載はあるが、取るべき行動3の考え方では触れられていないので、記載してはどうか。</p> | <p>皮や角など肉以外の部位の活用もあることから、取るべき行動3の関連する施策「ウ 地域資源としてのジビエの活用」を「ウ 地域資源としての鳥獣の有効活用」に修正したほか、エゾシカ以外の鳥獣の活用についての施策を追加しました。</p> <p>また、御指摘のような事例は承知しておりますが、個別の用途については、各個別計画において検討が進められるものと考えます。</p> |

| 関連部分 | 御意見 | 対応(案) |
|--|--|---|
| <p>【行動計画編】 21ページ 基本方針3 (4) 取るべき行動4</p> | <p>アイヌの伝統的な知識は生物多様性枠組(GBF)にも記載されている。本計画は、中長期的な方向づけを行うもの。一般的な書き方であっても、将来に向けて、関連する施策は、書いた方がよい。取るべき行動4の考え方には書かれているので、その整合もある。また、基礎資料編には入れるべきではないか。</p> <p>北海道らしい計画とするには、アイヌの記載は欠かせない。</p> <p>基礎資料編については、アイヌの記載はあった方がいい。学ぶべきことが多い。</p> <p>生物多様性と絡めた方がいい。生物多様性は色々あることに加え、固有性が重要。北海道には固有性のある生態系があり、そこに固有の文化がある。長い目標を考えるなら、固有性を大事にして考えられないのかと思う。</p> <p>他の関連する施策は非常に一般的なものを記載している。アイヌ民族固有の自然観に配慮し啓発を図るなど、書き方はあるのでは。基本的な、一般的なことは書けると思う。</p> | <p>御指摘を踏まえ、基礎資料編に「6 縄文文化・アイヌ文化と生物多様性」として記載を行いました。</p> |
| <p>【行動計画編】 21ページ 基本方針3 (4) 取るべき行動4</p> | <p>基本方針3は、社会課題の解決や地域づくりへの自然の恵みの活用である。取るべき行動4に、「生きがいや心身の健康」とあるのが唐突なので、前段「アイヌ文化をはじめとする」のみとして、もう少し大きなくりの題名とした方がいいのではないかと。生きがいや健康増進は否定しないが、社会課題の解決につながるような広い記載としてはどうか。「心身の健康」を書くのであれば考え方にも記載すべき。</p> <p>固有の生態系を大事にして生態系を豊かにするとなる。北海道で暮らすことが豊かさにつながる。そういう切り口での入れ方はあると思う。</p> <p>取るべき行動4の記載がわかりづらいのだと思うので、修文してはどうか。例えば、「アイヌ文化をはじめとする地域の自然を背景とした固有の伝統文化・知識の継承・振興・活用を図り、かつ道民の生きがいの～」としては。</p> <p>前段と後段を切れれば、前段にはまる施策はあると思う。基礎資料編も一般的な書き方をできるのでは。そういう意味でも並列とした方が選択肢が広がると思う。</p> | <p>御意見を踏まえ、心身の健康等については取るべき行動3の中で記載することとしました。</p> <p>また、アイヌ文化等について次のとおり施策を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の適切な保全と活用を図り、国内外への価値の発信を強化します。 ○ 北海道アイヌ政策推進方策に基づき、アイヌ政策を総合的に推進します。 |

| 関連部分 | 御意見 | 対応（案） |
|--|--|--|
| <p>【行動計画編】 23ページ 基本方針 4</p> <p>【本編】 22ページ 基本方針 4</p> | <p>本編22ページの基本方針 4で、プランテーションに触れられており、グローバルな視点も必要と書かれているが、行動計画にも反映することが必要ではないか。</p> <p>本編22ページの基本方針 4の16行目に、「道外、国外の生物多様性」とある。国外とのつながりは前から指摘されているところ。生態系自体がつながっていること、影響があることを普及啓発することを入れると生物多様性条約や生物多様性枠組（GBF）、生物多様性国家戦略とリンクできてよい。</p> <p>本編22ページにある、環境ラベルの充実になると思う。その支援や普及啓発等を具体的に記載すると、道民にも理解されやすいのではないか。</p> <p>環境ラベルは国内のものと国際的なものがある。国際認証も視野に入れて記載してはどうか。</p> | <p>御指摘の考え方については、基本方針 4の取るべき行動 3「生物多様性への負荷の少ない消費・生活活動を推進する」に反映しています。</p> <p>御意見を踏まえ、本編22ページ16行目に次のとおり生態系のつながりについて追記しました。 「<u>私たち自身の暮らしと生物多様性との関係や、道内外の生態系のつながりに気づき</u>」</p> <p>御意見を踏まえ、行動計画編23ページ<取るべき行動 2の考え方>に、環境ラベルについて追記しました。</p> |
| <p>【行動計画編】 23ページ 基本方針 4 (1) 取るべき行動 1</p> | <p>取るべき行動 1の「自然とのふれあい」が森に偏っている。ほかの生態系もあるので視野を広げる書き方にしてはどうか。</p> | <p>御意見を踏まえ、次のとおり森林以外の生態系も対象とする施策を追加しました。 「○道内各地のビジターセンター等と連携し、自然環境に関する情報の提供や自然を利用する際に留意すべき事項の普及啓発等を実施します。」</p> |
| <p>【行動計画編】 25ページ 基本方針 4 (4) 取るべき行動 4</p> | <p>取るべき行動 4の生命尊重の意識醸成と関連する施策の内容に違和感がある。ペットを含め、いろいろ生き物が混在する。命の見方は違うので、まとめて書かれると、施策とリンクしないのでは。環境教育に記載する方が適切であり、記載の整理が必要ではないか。</p> <p>行動計画編25ページに給餌や餌付けが書いてあるが、取るべき行動の考え方に関連する記述がない。施策とのつながりが見えにくく、あるとわかりづらい。考え方は本編にも書いてある。取るべき行動の考え方は、本編に集約するか、コラムとするか、施策に結び付く内容に集約させた方がわかりやすいのでは。</p> | <p>御意見を踏まえ、考え方の記載について飼養動物に係る記述をまとめました。 なお、野生動物と家庭動物、産業動物とで人との関わり方こそ異なりますが、いずれも等しくいのちを有するものであり、命に対する考え方は共通するものと考えます。</p> <p>野生鳥獣への餌付けについては原案でも記載しておりましたが、御指摘を踏まえ、行動計画編基本方針 4の<取るべき行動 4の考え方>に餌付けに関する記載を追加しました。 なお、計画の見直しに当たっては、より簡潔に道の施策の方向性をお示しすることを念頭に、本編、行動計画編、基礎資料編の3部構成としているところです。本編においては、計画の全体像を簡素にお示しすることが必要であることから、原案のとおり構成とさせていただきます。</p> |

| 関連部分 | 御意見 | 対応(案) |
|---|---|---|
| <p>【行動計画編】 26ページ 基本方針4 (5) 取るべき行動5</p> | <p>取るべき行動5について、理科教育、地域学習等により啓発することを入れることはどうか。通常の教科の中で啓発することはどうか。一般的なことで良いので記載してはどうか。</p> <p>取るべき行動5には、環境教育が表題にあり、考え方にも学校とある。学校との連携は重要。教育部局と連携する可能性はあるのか。</p> <p>ヒグマなど自然との関わり方は、教育の中で小さい時からやっていくのが大切。生活の中ですることと、教育での対策も、施策として加えた方が良いのではないか。</p> <p>ヒグマなど自然との関わり方は、行動計画編25ページの取るべき行動4の考え方にある外来種などと並列に書いてはどうか。</p> | <p>生物多様性については、現行の小中高の学習指導要領において記載されており、各学校において指導が行われているものと承知しております。</p> <p>また、掲載した施策の実施にあたっては、教育部局とも連携して取り組んでいくものと考えております。</p> <p>御意見を踏まえ、行動計画編基本方針4の<取るべき行動4の考え方>について、ヒグマなどとの関わり方も含む記載に修正しました。</p> |
| <p>【行動計画編】 27ページ 【本編】 24ページ 横断的基盤的な取組</p> | <p>本編24ページの国家戦略と地域戦略の関係図は、わかりやすいと思うが、「生物多様性枠組」の所に「条約に基づく」、「生物多様性国家戦略」の所に「生物多様性基本法に基づく」と根拠法を書く方が、啓発的な意味でも良いのではないか。</p> <p>行動計画編27ページ、7行目、(1)の考え方の記載について、道内はデータの蓄積が十分でないとの意見もあったので、「長期的な」の後に、データの蓄積が十分ではないという現状についての一文を入れた方が良い。本編24ページの記載についても同様。</p> | <p>御意見を踏まえ、図中に追記しました。</p> <p>御意見を踏まえ、本編「3 横断的・基盤的な取組の概要」の<横断的・基盤的な取組>の考え方及び、行動計画編「5 横断的・基盤的な取組」(1)の<取組の考え方>にある、考え方の記載について、データの蓄積が十分ではないことを前提に、更なる調査研究や情報収集が必要である旨追記しました。</p> |
| <p>【行動計画編】 27ページ 横断的基盤的な取組</p> | <p>行動計画編27ページの(2)の連携促進は、誰と誰との連携なのか。わかりにくい。誰と連携するのか記載してはどうか。</p> <p>また、その他の関係機関を明記し、獣医師会、農協、漁協などが入ると思うが書かれてはどうか。</p> | <p>前段について、御意見を踏まえ「道と各主体との連携」と「各主体間での連携」のどちらも読めるよう、「道を含む国内外の様々な主体間の連携を促進する」に修正しました。</p> <p>後段について、関係機関が多数あり、幅広く連携を図る観点から原案のとおりとさせていただきます。</p> |

| 関連部分 | 御意見 | 対応(案) |
|--|--|--|
| <p>【行動計画編】 27ページ 横断的基盤的な取組 (1)</p> | <p>モニタリングについて、取組の考え方には樹木の記載があるが、施策にはない。森林や里山のモニタリングが書かれていない。いろいろな生態系のモニタリングがあってもよい。また、希少種だけではなく普通種も将来減ることでサービスが減るので、北海道固有の普通種などが入ると独自性が出るのではないか。</p> | <p>御意見を踏まえ、希少種や他の生態系に係る施策を追加しました。 なお、各種指定区域の中には、広大なものや規制が限定的なもの、市街地を含むもの等様々な形態があり、全ての区域について生物リストを作成することが必ずしも当該区域の保全上効果的であるとは限りませんので、個別の制度ごとに実施の必要性を検討すべきものと考えられます。</p> |
| | <p>モニタリングについて、これまでも劣化を回復させるため、評価をしていくためには現状把握とモニタリングが必要との議論。(1)アとイの書きぶりでは具体性がない。保護区を増やすことや見直すことは書かれているので、道所管の区域においては生物リストの作成を追記してはどうか。 また、アンブレラ種や希少種に関しては、連携して道内の分布状況の把握、モニタリング体制の構築を書き込めないか。生物多様性を損ねない再エネにも基礎データが必要。その方面にも役立つので施策を追加いただきたい。</p> | |
| | <p>モニタリングを関係機関と連携して進めることはあった方がよい。</p> | |
| <p>【行動計画編】 27ページ 横断的基盤的な取組 (2)</p> | <p>大学とも連携したいので教育機関もあるとよい。</p> | <p>御意見を踏まえ、関連する施策を「カ 事業者・関係団体等との連携」として、その中で、研究・教育機関について明示しました。</p> |
| | <p>行動計画編28ページ、16行目、「イ 国際機関との連携」について、連携自体は良いが、環境審議会ではJICAを想定すると発言があったが、JICAは国際機関ではない。自治体と国際機関との連携は良いと思う。今の記載は、連携が限定的。将来の広がりを残す点で、連携と研修受け入れは分けた方がよい。 国際機関や海外の自治体との連携などもあってもよい。</p> | <p>御意見を踏まえ、イを「国際的な連携」に修正しました。また10目の施策について、「国際機関等との連携や、環境分野における海外からの研修受入を促進します。」に修正しました。</p> |

| 関連部分 | 御意見 | 対応（案） |
|--------------------------------------|--|--|
| 【行動計画編】 27ページ 横断的基盤的な取組 (3) | 行動計画編「5 横断的・基盤的な取組」の(3)について、マッチングという言葉に違和感がある。関連する施策が読み取れない。 また、教育の推進の項目もあるが、それを明示してマッチングは消してもよいのでは。 また、細かい話だが、「住民団体等が開催する」という記述は、道の施策としてはおかしいのではないか。 | 関連する施策の概要アの40目について、施策の内容が正確になるよう次のとおり修正しました。 「○地域の自主的な環境保全活動の支援を図るため、住民団体等が開催する環境学習講座に講師を派遣します。」 |
| 【行動計画編】 30ページ 指標一覧 | 30ページ、指標の1-1の最後の指標の測定方法が、アンケート調査となっている。膨らませて書いていただき、関係機関と連携して評価を行うようにしていただきたい。 30ページ、指標の考え方の記載部分について、リモートセンシングや環境DNAの手法も出てきており、空気中のDNAを取る方面の検討もされている。その辺が入れる余地を残してもらえるとよい。 30ページ、8行目、「追加、削除、修正」のところに技術的な部分も追記いただければ。 | 御意見を踏まえ、次のとおり評価の方法について柔軟な対応ができるよう修正しました。 「道内の自然環境分野の研究機関等と連携し、研究者などへのアンケート調査やヒアリング結果等を踏まえ評価」 御意見を踏まえ、次のとおり「IV 指標一覧」に今後の指標の見直しについて追記しました。 「また、本計画の進捗や国内外の生物多様性に関する同行、生物多様性の評価等に係る技術的な進展等を踏まえ、必要に応じて指標の追加や削除、修正等を行うこととします。」 |
| 全体 | 昨年から、環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）、北海道生物多様性保全活動連携支援センター（HoBiCC）と道庁が共催で「北海道生物多様性保全ダイアログ」を開催している。そこでは新たな計画に広く意見を求める機会としている。審議会のプロセスに加え、計画にも書いていただきたい。 | 御意見を踏まえ、基礎資料編に追記しました。 |

※資料作成の都合上、御意見の言い回し等は一部変更しています。